様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｈ０３０６７

研究課題名（和文）近・現代東アジア武術の技法と思想の変容に関する国際比較：武術原理論の視点から

研究課題名（英文）International comparative study about the change of techniques and thoughts in modern East Asian martial arts: From the perspective of the principle of martial arts

研究代表者
志々田　文明（Shishida, Fumiaki）

早稲田大学・スポーツ科学学術院・名誉教授

研究者番号：８０１９６３７８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,310,000円

研究成果の概要（和文）：以下の点を検証した。
(1)武術/武道の本義としての武術性(実戦的な実用性)は、暴力性という評価に結びつく以前に人間の動物性からくる生き抜く力にある点。(2)日本武道。剣術/剣道には、その歴史的性格(実戦・芸道・競技)に各々臨機応変に作用する実践知があること。柔術/柔道では、嘉納治五郎の求めた思想が柔術/剣術を総合した新たな様式の武道の出現にあり、武術性を具備した文化的発展にあったこと。(3)東アジア武術。中国武術は近代以降に西欧文化の影響で競技武術として成立し、その国際化に伴い武術性が減少して競技性や娯楽性が重視されてきたこと。また戦後に創始された韓国武芸のテコンドーでも同様であること。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、東アジアを代表する、日本武道、中国武術そして韓国武芸に通底する基底的要素である＜戦いで実用的な技術＞を、「武術性」という用語に要約して、比較しながらそれぞれ歴史的・思想的に考察したものである。このことは、これまで武術あるいは武道といいながら、それがスポーツなのか戦闘の技術なのかについて曖昧にして議論してきた研究風土に、比較の軸を示して、それによって世界中の武術や格闘技を考える視点を示した点で、大きな学術的意義がある。また武術の原意が暴力性になく、人間が生き抜く生存力にあることを示し、それらの成果を図書の形で広く江湖に紹介した点は、人類史上の意義を江湖に認知させる社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：(1) "Bujutsu-sei" (practicality in battle) as the true meaning of bujutsu/budo lies in the power of survival that comes from the animal nature of human beings before it is connected to the evaluation of violence.
(2) Kenjutsu/Kendo has practical knowledge that can be applied flexibly to each of its historical characteristics (actual combat, art, and competition). In Jiu-Jitsu/Judo, the idea that Jigoro Kano sought was the emergence of a new style of martial arts that integrated Jiu-Jitsu and Kenjitsu, and the cultural development of Jiu-Jitsu/Judo with martial arts characteristics.
(3) Chinese martial arts were established as competitive martial arts under the influence of Western culture after the modern era, and with the internationalization of Chinese martial arts, "Bujutsu-sei" of Chinese martial arts has decreased and the emphasis has been on competition and entertainment. The same can be said for Taekwondo, a Korean martial art that was created after the war.

研究分野：武道論

キーワード：武道　武術　実戦的実用性　中国武術　韓国武芸　東アジア武術　剣道　柔道

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

嘉納治五郎は「当て身を欠いた武術は、不具の武術である」（1931）とし、柔道に実戦的実用性（以下、「武術性」）の必要を語っている。また嘉納は、空手由来の当身技を取り入れた「精力善用国民体育」（1928）を作成し、体育の重要性とともに競技における武術性に関心を示した。戦後社会の民主化と武道のスポーツ化の動向の中で、武術性は一般に後景に退くが、柔道界では武術性を意識した新たな「形」といえる「講道館護身術」の制定があり、剣道界では「剣道の理念」の制定がなされた。後者では勝利主義による競技剣道の歪みを是正するために刃筋を意識させることが求められた。これら問題に関連した先行研究から、武術性を解明するという研究代表者の問題意識は、本研究開始以前から醸成されていたが、本計画を作成する段階での研究分担者との議論の中で、まず、競技化しつつも武術性を失わない柔道とは何かという問いが生まれた。またその着想は、剣道その他の武術・武道のみならず、ひろく東アジア武術を貫く研究を行うための原理的基軸になるとの着想へと発展した。

こうして具体的な以下の研究計画が立てられた。まず柔道では、柔術に遡って武術性に必須の当身技との関係から、古流柔術である諸賞流和（しょしょうりゅうやわら）の研究や、先行研究の乏しい戦時中の柔道技法の研究、第二代講道館長南郷次郎の下で行われた「離隔態勢の技」研究などいくつかの個別課題が立てられた。また剣道では、剣術・剣道の武術性とは何かという根本問題や、近世剣術の歴史に遡って武術性と華法化との相克関係の研究が立てられ、柔道部門と併せて第一課題群となった。

日本武道をめぐる問題意識の深まりと並行して、これらの研究を相対化して、国際的な視座を得るために、東アジアの隣国である中国と韓国との比較研究が着想され、中国武術（套路と散打）と韓国武芸の古代から近・現代に至る通史的研究を武術性との関係で行うことが計画された。

２．研究の目的

以上の構想から、研究開始当初において以下の研究課題が設定された。

（1）武術性の原理的研究

（2）日本武道史：①古流柔術（諸賞流和など）の技法分析、②戦中の「決戦柔道」と武術性との関係、③剣道・柔道・合気道と武術性との関係等

（3）中国武術史：①中国武術の技術性変容（戦闘術・強兵育成・鍛練法から健康法への変遷）、②技術の変遷と武術性の減退・再構築、③戦後中国武術（套路と散打）の競技化における武術性の変化

（4）韓国武芸史：①伝統朝鮮武術の技術解明、②テコンドーの創始と展開（蹴り技への収束過程）

３．研究の方法

本研究は主に実証主義的な歴史学と思想史、また民族誌における参与観察の方法を用いた。研究を推進するために、日本武道史班、中国武術史班、韓国武芸（術）史班の設置が計画され、各主任に研究代表者、研究分担者、連携研究者をそれぞれ置いて、研究代表者の勤務する大学の研究者とともに、日本及び海外での学会発表、学術論文作成及び発表、国際会議（東アジア武術国際シンポジウム）の実施などが計画された。

また、研究推進による成果を確認し、反省して計画を補正するために、大学及び民間の武術・武道研究者を招いて定期的な研究会を開催することが計画された。

４．研究成果

本研究当初の研究目的は、研究の発進と共に、日本武道史班における剣術・剣道研究課題が拡充され、同時に全部の研究班にわたって研究課題が細分化された。それに伴う研究成果は別項に見られるように、学術論文、学会発表、研究会発表、図書のかたちで毎年度発信された。最終年（2020）には、『日本武道の武術性とは何か―サピエンスと生き抜く力』（青弓社）が出版され、学術的研究成果を広く社会に還元した。以上を総合した主な研究成果は以下のとおりである。

（1）武術性の原理的研究では、①東アジアを包摂する人類史の視点からその起源に遡って、人間の動物的本性と武術性との関係で考察し、これまで暴力と関係づけられて否定的に捉えられてきた武術・武道が、価値中立的な性格をもつ＜人間の生き抜く力＞であるとの新たな見解が提示された。また、②武術・武道と武術性を研究する武道学の科学としての特徴について、初めて歴史的かつ原理的な研究が行われ、武道学会設立における政治性と真理を追究する営為

としての科学との間に生じる矛盾の問題、その研究方法論の展開過程、また武道の定義の方法における原理的見解が提示された。

(2) 剣術・剣道の研究では、戦国末期以降の剣術・剣道史の知見と古流剣術の体験的研究を基に、武術性を伴う剣術・剣道が、彼-我の間で生まれる「臨機応変の実践知」として成立していたこと、また剣術・剣道に濃淡とともに通底する三つの性格（実戦性・芸道性・競技性）の中に、一種の危機の場における臨機応変の「実践知」があるとの見解が提示された。この見解は、人間教育における剣道の特長が、実践（行）による自-他の間（あいだ）性の濃淡と自由な心とにあることを、新たに提起したものと評価される。

(3) 近世剣術史の研究では、近世 17 世紀から近代に至る歴史が、養勇流剣術（新陰流系統）、一刀流、直心影流関係文書、及び 19 世紀剣術について検討された。特に「剣術」と武術性と体錬性を顕在化させた「撃剣」との相克、また武術性と華法化（芸道化や競技化など）との相克関係の中で、近代の剣道競技（試合）や剣道演武（地稽古）が形成されてくる過程が、新たな知見として提示された。

(4) 柔術・柔道の研究では、①幕末から近代にかけて起きた柔術の競技化と武術性の再編過程（当身技の体操化、競技化）及び、②日中戦争以降の武道の戦技化の過程と、戦中に戦技化された「決戦柔道」の歴史的実態が、また、③柔道の武術性を考察する契機として、嘉納治五郎の原理論と武術性、嘉納の武術思想を受け継いだ富木謙治の神武不殺の意味がそれぞれ明らかにされた。嘉納思想に関係してはさらに、④嘉納の研究を継承した富木謙治の昭和初期の研究を調査し、富木が過度の競技スポーツ化が武術性の喪失を招くとの認識から合気武術に活路を見いだしていた経緯が解明された。また、⑤富木の「柔道における離隔態勢の技」の研究と嘉納思想との連続性が明らかにされた。さらに、⑥今日の総合格闘技の原点と評価される戦前における「柔拳興行」（柔道と拳闘との競技イベント）の実態が、その主宰者であった嘉納健次（治五郎の甥）の履歴と併せて解明された。⑦当身技と古流武術の関係については、岩手県に伝承されてきた「諸賞流和」の新渡戸家文書が伝承者の協力を得て初めて解読され、同武術の当身技の実態解明が進展した。

(5) 中国武術については、①「武」という漢字の字形・字義の分析から武術性の内実を再確認したうえ、②殷代から清代末期までの武術の性格と思想の変遷を解明した。また、③中華民国時代に軍隊より省かれた武術が民間で普及展開し、競技として形成した過程や、④中華人民共和国以降の国策的体育化の進展過程における武術性の実態が解明された。さらに、⑤日本における中国武術の受容と変容を明らかにしたことで、国際化に伴う中国武術の武術性の減退・再構築を分析するための一例を提示した。

(6) 韓国武芸については、三国時代（高句麗・百済・新羅）以降の武芸史が検討され、①対外侵略に備えるための軍事武芸が発達したこと、また朝鮮時代には中国及び日本の兵法を取り入れた『武芸図譜通志』が刊行された経緯が跡づけられた。また、②植民地期における柔道・剣道の導入過程が検討され、これらの日本武道が、日本文化に対する「対抗文化」として受け入れられた側面をもつことが明らかにされた。さらに、③韓国伝統武芸の衰退・消失の過程が検討され、1990 年代前後からは、伝統性の復元などの活動をとおして新たな伝統武芸として育成されているという過程が提示された。また、④戦後におけるテコンドーについては、その創出と展開の実態が検討され、ルールの改定などによって、韓国の新たな独自武芸文化として育成されている過程が明らかにされた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計34件（うち査読付論文　13件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 工藤龍太	４．巻 17
２．論文標題 1940年形研究会の歴史的意味	５．発行年 2019年
３．雑誌名 講道館柔道科学研究会紀要	６．最初と最後の頁 19～37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 佐藤皓也	４．巻 10
２．論文標題 柳生新陰流の刀法：伝書にそった実践者の理解を中心に	５．発行年 2017年
３．雑誌名 埼玉武道学研究	６．最初と最後の頁 3～17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 劉暢	４．巻 63
２．論文標題 「武」の字形研究：武道・武術文化研究の基礎付け	５．発行年 2017年
３．雑誌名 体育学研究	６．最初と最後の頁 251～264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5432/jjpehss.17021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 池本淳一	４．巻 12
２．論文標題 武術性と応用性の百年：そして次の百年へ	５．発行年 2017年
３．雑誌名 月刊秘伝	６．最初と最後の頁 53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中嶋哲也	4．巻 49（2）
2．論文標題 日中戦争以降における武道の戦技化の起源とその背景：武道振興委員会の審議過程の分析	5．発行年 2016年
3．雑誌名 武道学研究	6．最初と最後の頁 95～107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 工藤龍太	4．巻 61（2）
2．論文標題 富木謙治の武道技術論の出発点と戦前における展開：嘉納治五郎の「武術としての柔道」論の継承を中心として	5．発行年 2016年
3．雑誌名 体育学研究	6．最初と最後の頁 681～700
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5432/jjpehss.16014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 佐藤皓也	4．巻 10
2．論文標題 柳生新陰流の刀法：伝書にそった実践者の理解を中心に	5．発行年 2016年
3．雑誌名 埼玉武道学研究	6．最初と最後の頁 3～17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 劉暢	4．巻 下巻
2．論文標題 「健康」から「競技」へ：日本における中国武術の土着過程	5．発行年 2016年
3．雑誌名 中華武術研究	6．最初と最後の頁 233～242
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 池本淳一	４．巻 10月号
２．論文標題 サンテル事件と嘉納健治における武術性の回復プラン	５．発行年 2016年
３．雑誌名 月刊秘伝	６．最初と最後の頁 116～120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 志々田文明	４．巻 1
２．論文標題 Why can a little lady throw down a strong man using only a finger?: The mechanism of soft atemi-waza	５．発行年 2015年
３．雑誌名 Archives of Budo Conference Proceedings 2015 HMA Congress	６．最初と最後の頁 225～233
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 劉暢，池本淳一，志々田文明	４．巻 1
２．論文標題 The conflicts in modernization of wushu: By the case of Japanese Wushu Taijiquan Federation oppose the Rules for Wushu Taolu Competition	５．発行年 2015年
３．雑誌名 Archives of Budo Conference Proceedings 2015 HMA Congress	６．最初と最後の頁 74～78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大保木輝雄	４．巻 1
２．論文標題 Philosophy of kendo: killing sword and life living sword.Reconsider the meaning of the culture of kendo in connection with the ideas of setsunintou and katsuninken	５．発行年 2015年
３．雑誌名 Archives of Budo Conference Proceedings 2015 HMA Congress	６．最初と最後の頁 68～73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 池本淳一，劉暢，志々田文明	4．巻 1
2．論文標題 Why Japanese budo enthusiast study foreign martial arts? By the case study of the Chinese martial arts pioneer Ryuchi Matsuda’s works and his thought based on Japanese traditional budo thought	5．発行年 2015年
3．雑誌名 Archives of Budo Conference Proceedings 2015 HMA Congress	6．最初と最後の頁 171～174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 工藤龍太	4．巻 48
2．論文標題 植芝盛平の当身対抗技の技術史的研究：嘉納治五郎が追求した武術としての柔道との関係を中心に	5．発行年 2016年
3．雑誌名 武道学研究	6．最初と最後の頁 12～134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 湯浅有希子，志々田文明	4．巻 53（2）
2．論文標題 新渡戸家文書にみる諸賞流和	5．発行年 2021年
3．雑誌名 武道学研究	6．最初と最後の頁 21～54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 381
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第1回）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 82～83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 382
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第2回）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 94～95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 383
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第3回）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 94～95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 384
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第4回）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 94～95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 385
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第5回）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 100～101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 386
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第6回）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 94～95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 387
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第7回）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 62～63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 388
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第8回）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 94～95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 389
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第9回）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 68～69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 390
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第10回）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 106～107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 391
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第11回）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 100～101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池本淳一	4．巻 392
2．論文標題 中国伝統武器の手触り（第12回）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 月刊秘伝	6．最初と最後の頁 54～55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 劉暢	4．巻 52（1）
2．論文標題 日本における套路競技の過去と将来:武術規則の変遷と武術性の分析から	5．発行年 2019年
3．雑誌名 武道学研究	6．最初と最後の頁 1～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Chang LIU, Kyungwon JUNG	4．巻 2
2．論文標題 The China’s sports policy making process and its influence on Wushu: focusing on 1949 to 1957	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Korean Journal of human movement	6．最初と最後の頁 23～35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kyungwon JUNG, Chang LIU	4．巻 10 (3)
2．論文標題 Investigation into the direcivity of Taekwondo Poomsae Competition: A Comparative Analysis of Taolu and Poomsae	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Taekwondo Journal of Kukkiwon	6．最初と最後の頁 255～282
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Chang LIU, Kyungwon JUNG	4．巻 58 (5)
2．論文標題 The internationalization of Wushu Through demonstration from 1949 to early 1980s	5．発行年 2019年
3．雑誌名 The Korean Journal of Physical Education	6．最初と最後の頁 54～59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 劉暢	4．巻 1
2．論文標題 A study of the acceptance process of Chinese martial arts in Japan from 1900-1949	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Korean Journal of human movement	6．最初と最後の頁 33～45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kudo Ryuta	4．巻 0
2．論文標題 A Historical Study of the Formative Process of Aikid? as a Modern Bud?: Focusing on the Continuity and the Discontinuity of J?jutsu	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Sportgeschichte in Deutschland	6．最初と最後の頁 173～188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 工藤龍太	4．巻 52（2）
2．論文標題 昭和戦前期における「武術としての柔道」論の展開：当身技の研究に着目して	5．発行年 2020年
3．雑誌名 武道学研究	6．最初と最後の頁 39～55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計56件（うち招待講演　3件／うち国際学会　22件）

1．発表者名 志々田文明
2．発表標題 武術性概念とその展開：講道館護身術と「剣道の理念」
3．学会等名 日本体育スポーツ哲学会
4．発表年 2018年

1．発表者名 工藤龍太
2．発表標題 昭和戦前期における「武術としての柔道」論の展開：当身技の研究に着目して
3．学会等名 日本武道学会
4．発表年 2018年

１．発表者名 劉暢
２．発表標題 日本における中国武術の需要過程：1897-1972の言説に着目して
３．学会等名 日本体育学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 志々田文明
２．発表標題 武術性について
３．学会等名 東アジア武術・武道論研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 志々田文明
２．発表標題 武術性とサピエンス
３．学会等名 東アジア武術・武道論研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 池本淳一
２．発表標題 『柔道対拳闘：投げるか、殴るか』著者解題：「二人の嘉納」にとっての柔道の武術性を中心に
３．学会等名 東アジア武術・武道論研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中嶋哲也
２．発表標題 型を内側から知る：新陰流の参与観察を中心に
３．学会等名 東アジア武術・武道論研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大保木輝雄
２．発表標題 なぜ佚斎樗山は天狗芸術論・猫の妙術を書いたのか？：関宿藩（野田市）関係資料から
３．学会等名 東アジア武術・武道論研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大保木輝雄
２．発表標題 「撃剣（剣道文化）再考：競技の観点から
３．学会等名 東アジア武術・武道論研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 工藤龍太
２．発表標題 大東流の英名録・謝礼録にみる植芝盛平の煩悶：武道の近代化の異相
３．学会等名 東アジア武術・武道論研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 池本淳一
２．発表標題 中国武器の武術性に関する一考察：道生中国兵器博物館所蔵の武器と実演を例に
３．学会等名 東アジア武術・武道論研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 劉暢
２．発表標題 套路のグローバリゼーション
３．学会等名 早稲田大学SGU国際シンポジウム
４．発表年 2019年

１．発表者名 志々田 文明
２．発表標題 なぜ武術性を問うのか？武術・武道研究の根本問題
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 大保木輝雄
２．発表標題 武術の実用性とその応用
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 加藤純一
２．発表標題 日本の剣術・剣道における形技法と競技技法の実用性について
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 中嶋哲也
２．発表標題 柔術・柔道史おける武術性の問題：柔術試合・嘉納治五郎・富木謙治
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 佐藤忠之
２．発表標題 鍔迫り合いに見る剣術と柔術の接点：剣術の中に潜在する柔術性を考察する
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 池本淳一
２．発表標題 誰の、何のための武術か？：東アジア武術の比較枠組みを求めて
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 鄭旭旭
２．発表標題 中国散打競技の38年
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 荘嘉仁
２．発表標題 中国武術の競技化における衝突と変遷：1895年から1945年を事例に
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 朴周鳳
２．発表標題 韓国の武術における武術性の問題
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Zdenko Reguli
２．発表標題 The actual utility on martial arts in Europe
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Roman Maciej Kalina
２．発表標題 Heritage and the future of East Asian Martial Arts in the development of preventive and therapeutic agonology
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Ryuta Kudo
２．発表標題 The development of Jigoro Kano’s concept of judo as a martial art during the prewar Showa era: focusing on the researches on atemi-waza by Jigoro Kano and Kenji Tomiki
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yuasa Yukiko
２．発表標題 Technique pattern analysis of "Tachiai" in Shosho-Ryu Yawara
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Liu Chang
２．発表標題 The decline of actual utility of Wushu Taolu: The transition of Rules for Wushu Taolu Competition
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Koya Sato
２．発表標題 A study on technical terms related to Toho : Focusing on books of Kenjutsu in Edo era：focusing on the technical terms such as “Kiru (or cut)”, “Sasu (or stab)”, “Utsu (or hit)”, and “Tsuku (or push)”
３．学会等名 東アジア武術国際会議2017（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 工藤龍太
２．発表標題 近代武道・合気道の形成過程：植芝盛平の大東流合気柔術修行歴に着目して
３．学会等名 体育史学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 工藤龍太
２．発表標題 1930年頃の植芝盛平の柔道対抗技の技術分析：嘉納治五郎の「武術としての柔道」論の観点から
３．学会等名 第12回東北アジア体育・スポーツ史学会（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 湯浅有希子
２．発表標題 諸賞流和における「立合」の技法―高橋厚吉氏らの実演に基づいて
３．学会等名 第26回日本柔道整復接骨医学会学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 佐藤皓也
２．発表標題 『あてっこ剣道』の批判的検討：『剣道の理念』との関係から
３．学会等名 日本体育学会体育哲学専門分科会・箱根夏期合宿研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 佐藤皓也
２．発表標題 近世剣術伝書における『刀法』に関する技術用語について：『きる』、『うつ』、『さす』、『つく』という名辞を中心に
３．学会等名 日本武道学会第 50 回記念大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 劉暢
２．発表標題 中国武術における武術性から競技性への変容の意味：1949-2016の日中の動向
３．学会等名 日本武道学会第 50 回記念大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 劉暢
２．発表標題 A study on the development of Chinese martial arts in modern Japan: Focusing on 1840s-1940s
３．学会等名 Forum on top global university project: Formulation an international academic network in health and exercise（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 湯浅有希子
２．発表標題 新渡戸常文『諸賞流和聞書』の一考察
３．学会等名 第25回日本柔道整復接骨医学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 中嶋哲也
２．発表標題 戦時下における武道論の諸相：昭和14（1939）年の武道振興委員会に着目して
３．学会等名 2016年東アジア武術・武道研究会合宿
４．発表年 2016年

１．発表者名 工藤龍太
２．発表標題 唐手と合気柔術が戦前柔道界に与えたインパクト：日本武道の実戦的実用性志向
３．学会等名 2016年東アジア武術・武道研究会合宿
４．発表年 2016年

１．発表者名 佐藤皓也
２．発表標題 「あてっこ剣道」の成立可能性の原理論的考察：現代剣道の競技規定を中心に
３．学会等名 体育哲学研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 佐藤皓也
２．発表標題 剣道の技術と技術観に関する研究：有効打突の刃筋正しくという文言に注目して
３．学会等名 日本武道学会第49回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 朴周鳳
２．発表標題 無形文化財の韓国武芸”テッキョン”の創造と現状
３．学会等名 武道・東アジア武術論研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 佐藤皓也
２．発表標題 The methods of using the sword of Shinkageryukenjutsu and the Contemporary Kendo: The techniques of the body for manipulating a bamboo sword
３．学会等名 IMACSSS（第五回）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 劉暢
２．発表標題 「健康」から「競技」へ：日本における中国武術の土着過程
３．学会等名 2016第二回全国武術運動大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 志々田文明
２．発表標題 Why can a little lady throw down a strong man using only a finger?: The mechanism of soft atemi-waza
３．学会等名 1st World congress on health and martial arts in interdisciplinary approach（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 劉暢，池本淳一，志々田文明
２．発表標題 The conflicts in modernization of wushu: By the case of Japanese Wushu Taijiquan Federation oppose the Rules for Wushu Taolu Competition
３．学会等名 1st World congress on health and martial arts in interdisciplinary approach（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 大保木輝雄
２．発表標題 Philosophy of kendo: killing sword and life living sword.Reconsider the meaning of the culture of kendo in connection with the ideas of setsunintou and katsuninken
３．学会等名 1st World congress on health and martial arts in interdisciplinary approach（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 池本淳一，劉暢，志々田文明
２．発表標題 Why Japanese budo enthusiast study foreign martial arts? By the case study of the Chinese martial arts pioneer Ryuchi Matsuda’s works and his thought based on Japanese traditional budo thought
３．学会等名 1st World congress on health and martial arts in interdisciplinary approach（国際学会）
４．発表年 2015年

１．発表者名 湯浅有希子,中嶋哲也,志々田文明
２．発表標題 諸賞流柔術における当身とその武術性について
３．学会等名 日本体育学会第66回大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 工藤龍太，池本淳一
２．発表標題 1930年代の合気武術における当身技の技術史的研究
３．学会等名 日本体育学会 第66回大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 鄭卿元
２．発表標題 韓国解放（1945年）以降、初期のテコンドー道場の成立過程と日本空手との関係
３．学会等名 日本体育学会第66回大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 劉暢
２．発表標題 日本における中国武術の受容と変容
３．学会等名 日本体育学会第66回大会
４．発表年 2015年

１．発表者名 中嶋哲也
２．発表標題 伝書の読み方と所作の関係性：千葉県のY道場における稽古「復刻」に着目して
３．学会等名 スポーツ人類学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 佐藤皓也,志々田文明
２．発表標題 一刀流の刀法の特徴と理合：切落としを中心に
３．学会等名 スポーツ人類学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 志々田文明
２．発表標題 柔道と剣道の技術的接点：「崩し」と「刀法」の関係にみる嘉納治五郎の宿題
３．学会等名 スポーツ社会学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 劉暢，鄭卿元
２．発表標題 The relationship between early Taekwondo instructors and Chinese martial artists -an analysis based on Yoon Byung-in and Hwang Ki-
３．学会等名 2015 Universiade Gwangju International Sport Science Congress
４．発表年 2015年

１．発表者名 Chang LIU
２．発表標題 A study on the popularization and globalization process of Chinese wushu
３．学会等名 International Academic Conference for Promotion of Traditional Martial Arts
４．発表年 2019年

１．発表者名 劉暢
２．発表標題 日本における套路競技の発展過程と現状
３．学会等名 上海市民族伝統体育学フォーラム
４．発表年 2019年

〔図書〕　計3件

１．著者名 湯浅有希子	４．発行年 2016年
２．出版社 早稲田大学出版部	５．総ページ数 274
３．書名 柔道整復師：接骨術の西洋医療化と国家資格への歩み	

１．著者名 志々田文明・大保木輝雄・榎本鐘司・中嶋哲也・朴周鳳・工藤龍太・劉暢・鄭卿元・池本淳一・田井健太郎	４．発行年 2020年
２．出版社 青弓社	５．総ページ数 322
３．書名 日本武道の武術性とは何かーサピエンスと生き抜く力	

１．著者名 池本　淳一	４．発行年 2018年
２．出版社 BABジャパン	５．総ページ数 243
３．書名 実録 柔道対拳闘(ボクシング)ー投げるか、殴るか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

東アジア武術・武道研究フォーラム
https://sites.google.com/site/dongajiawushuwudaoforamu/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	大保木　輝雄 (Oboki Teruo) (80114205)	埼玉大学・教育学部・名誉教授 (12401)	
研究分担者	池本　淳一 (Ikemoto Junichi) (90586778)	会津大学・コンピュータ理工学部・上級准教授 (21602)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
連携研究者	中嶋　哲也 (Nakajima Tetsuya) (30613921)	茨城大学・教育学部・准教授 (12101)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
連携研究者	朴　周鳳 (Park Joobong) (40649323)	駿河台大学・スポーツ科学部・准教授 (32411)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
東アジア武術国際会議2017	2017年～2017年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関